



# 社団法人エゾシカ協会

YEZO DEER ASSOCIATION

Newsletter No. 11 2002年10月1日

事務局：〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢 166-8 ☎01332-5-5533 Fax01332-2-3013

http://www.yezodeer.com/ E-mail: ida@gallagherage.jp

- ◆エゾシカの分布状況について／梶光一-1
- ◆エゾシカ対策の現状と課題／宮津直倫-2
- ◆マッカーラー教授のエゾシカ保護管理の提言-3
- ◆林好美の My Deer Stories <1>-5
- ◆会員ひろば：上條シェフのシカ肉料理-6

## ◆特集◆ エゾシカの現況と管理対策の動向

狩猟解禁も目前に迫り、エゾシカの生息状況や保護管理対策の動向が気になるところです。協会では、春の総会セミナー（5月24日／ホテルアルファ札幌）で、梶光一氏（道環境科学研究センター）と、エディンバラ大学でアカシカの保護管理を研究して帰還したばかりの林好美氏を講師に迎えたほか、夏には、カリフォルニア大学パークレー校のマッカーラー教授（野生動物管理学）を迎えた特別セミナーを開催（7月31日／ホテルアルファ札幌）。エゾシカの現状や保護管理対策のありかたについて、数多くの貴重な知見や提言を得ました。

今号は、これらセミナー報告に加え、最前線でエゾシカ対策に取り組む宮津直倫氏（道庁エゾシカ対策係長）に寄稿をお願いし、林好美さんの連載もスタートということで、エゾシカの現況と管理対策の動向の特集です。

なお、2セミナー後の食事会で、出席者の感嘆を集め、シカ肉有効利用の未来に多大な希望をもたらしたホテルアルファのレストラン「アルジェンヌ」の上條シェフのシカ料理については「会員ひろば」をご覧ください。

### ◆Topic1

## エゾシカの分布状況について

梶 光一

（道環境科学研究センター自然環境保全科長）

エゾシカは札幌の市街地を除いた全道に分布しています。なかでも道東の阿寒地域が分布の中心でした。これまでの個体数調整の結果、道東では減少傾向までもってくることができました。この結果、最近では日高から道央圏に分布の中心が移動してきています。特に、えりもが全道で一番、高密度でしょう。さらに登別などの道南、渡島半島部まで分布が広がってきています。札幌市でも手稲では一年中いますね。

道東のシカの個体数ですが、1993年当時は8～16万頭と推定して管理の基準値としましたが、その後、モデルと実際の捕獲数との比較検討から、実際には約20万頭が生息していたと判断され、推定生息数の修正を行いました。それが個体数調整の結果、12～20万頭あたりになったと考えられますが、依然として相当数のシカがいることに変わりありません。

メスジカの狩猟が解禁されたのは1994年で、実に72年ぶりでした。最初はメスジカは容易に捕獲されたようですが、メスジカが学習した結果、思ったほど捕れなくなりました。このため、狩猟者からシカがいなくなったという声が出ていますが、事実は全く減っていません。

阿寒や知床などの高密度地域、つまり国立公園内の保護区ではシカの食害によって植生が変わってしまい、結果としてシカの生息環境も変わってしまいました。この変化は阿寒や足寄では、シカが小型化するということかたちで影響が出ています。ただ、繁殖力（妊娠期間）や個体群の内部構成には変化は見られません。以上が現在の状況です。■\* <5月24日総会セミナー講演より要約／写真：総会セミナーで講演する梶氏>



◆Topic 2

## エゾシカ対策の現状と課題

—2002年エゾシカ猟に向けて—

宮津 直倫

(北海道庁自然環境課エゾシカ対策係長)

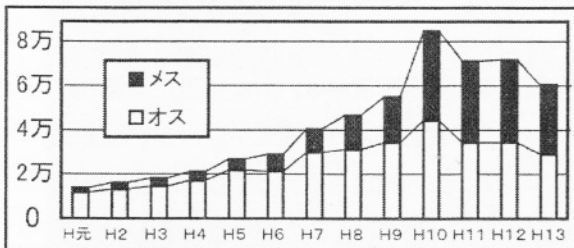
晩秋は狩猟の季節です。そろそろ銃の手入れや射撃練習に勤むハンターさんも多いのではないのでしょうか。今年のエゾシカ猟の解禁日は、昨年と同様11月1日です。そこで、昨年のエゾシカの捕獲状況や生息状況、課題などについてお話したいと思います。

### ●平成13年度の農林業被害とエゾシカ捕獲状況

昨年度のエゾシカによる農林業被害額は約31億円で、前年度に比べ約5億円減少しています。平成8年度に50億円を超えていたことを考えますと、被害はかなり減少してきました。

また、平成13年度のエゾシカ捕獲数は、全道で約6万頭と、12年度の約7万2千頭と比べ約1万2千頭の大幅減少となりました。減少の内訳は、狩猟が約1万頭、有害駆除が約2千頭で、特に狩猟での落ち込みが目立っています。

ではなぜ、狩猟による捕獲数が減ったのでしょうか？エゾシカの生息数が減ったからでしょうか？いいえ、実はエゾシカの生息数はそれほど減っていないのです。



全道のエゾシカ捕獲数の推移 (単位: 頭)

### ●エゾシカ生息状況

エゾシカの生息数について、生態学者や統計学者からなるエゾシカ保護管理検討会で、いくつかの調査結果を基に推定しています。平成13年度の道東地域のエゾシカ生息数は、前年度に比べ横ばいという判断になりました。

検討会が最も重視している調査はライトセンサス調査で、毎年10月下旬に予め決められた10km程度のコースで夜間サーチライトを照らしながらエゾシカを数えるものです。平成13年秋のライトセンサス調査では、平成

12年の調査結果より若干増加していました。また、道東以外では日高地方で明らかな増加傾向が認められます。



ニレの樹皮を食べるメスジカ

### ●今年のエゾシカ猟に向けて

では、どうして狩猟の捕獲数は大きく減少したのでしょうか？それは、エゾシカが学習し夜行性になってきたことや、狩猟期間中の積雪量が少なかったため、山から降りてこなかったことなどが要因ではないかと考えられています。

しかし、捕獲報告を見ると捕れている人は捕れています。車に乗ったままの、いわゆる流し猟で捕れる時代ではありません。捕獲場所や方法に工夫が必要です。

### ●ワシ類の鉛中毒

平成13年11月1日からエゾシカ猟では全ての鉛弾の使用が禁止されましたが、その後もオオワシやオジロワシの鉛中毒死が発生しています。

この問題は、希少猛禽類の保護という面で重大な問題ですが、それ以上に、狩猟者の信用低下、狩猟のイメージ低下が懸念されます。狩猟者数がますます減少し、野生鳥獣の保護管理に支障を生じる恐れがあるからです。今猟期は道警、銃砲店などの協力を得て、一層の取り締まり強化や普及啓発を行っていきます。

### ●捕獲個体の適正処理

今年7月に鳥獣保護法の全面改正があり、原則として捕獲物の放置が禁止されました。施行は来年4月の予定なので、今年のエゾシカ猟には適用されませんが、狩猟者のマナーとして適正に処理してほしいものです。

また、最近はシカ肉の需要が増え、これにあわせてシカ肉処理場も増えてきました。平成13年度は原料供給が需要に追いつかず、在庫切れをおこしたシカ肉処理場もあったそうです。肉屋さんを納得させる狩猟技術を持った方であれば、大きさにもよりますが1万~1万5千円で買い取ってくれます。もう、家の冷蔵庫がいっぱいのあなた、利用してみませんか。■

## ◆Special Topic エゾシカ保護管理に関する提言

デール・マツカラ (Dale McCullough/カリフォルニア大学バークレー校教授・野生動物管理学)

マツカラ教授は、7月1日、北海道環境科学研究センターの海外客員研究招へい事業によって、ご夫妻で来札されました。3回目の来道となる今回は、えりも町、阿寒、知床、洞爺湖中島を視察し、各地のセミナーで講師を務めたのをはじめ、精力的に研究交流活動を行い、8月2日離日されました。7月31日のエゾシカ協会主催セミナー(会場:ホテルアルファ札幌)は、こうしたマツカラ教授の1カ月におよぶ北海道滞在の締めくくりとして、お別れ会を兼ねて開催され、セミナーでは、滞在成果に基づいた貴重な「エゾシカの保護管理に関する提言」をお話いただくことができました。当日の司会進行を、教授の招へい元で視察にも同行した梶光一さん(道環境科学研究センター自然環境保全科長)に、また、通訳と以下報告記事の監修については林好美さん(エディンバラ大学にてシカ研究/5頁の連載参照)のお世話になりました。<編集部:木村克則>

### 懸念されるハンターの高齢化

私が、10年前に初めて北海道を訪れた時には、研究も比較的少なく、管理体制は、かなり貧弱なものでした。が、多くの人々による努力の結果、今や北海道における管理レベルは、米国に劣らないと私は判断します。

これまで北海道では、狩猟による広域レベルでの管理で成功を収めて来ましたが、管理体制の将来的発展のためには、特定の地域、特定の問題に対して、個別により注意深く繊細に指示をしていくことが不可欠でしょう。

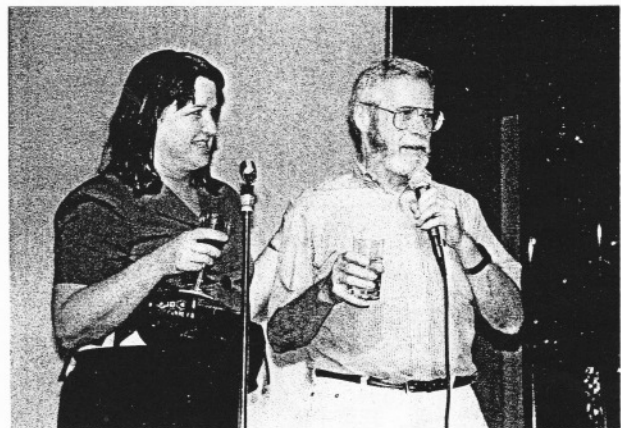
また、大きな関心事の1つは、ハンターたちの高齢化です。明らかに、若いハンターたちの勧誘(リクルート)が不足していると思います。もし、若い人たちを狩猟に引っ張り込む魅力的な方法が見つからないとしたら、従来のシカの個体数管理を、例えば、ハンターの公務員化などこれまでとは違った管理システムに変えていく必要があるでしょう。ハンター人口の減少は、将来のシカ管理における大きな問題の1つです。

### 4つの提案

さて、特定の問題をかかえた地域における、個別的な管理のための、いくつかの可能性について私なりの提案をお話します。

#### ■1. 柔軟な保護管理システムを

ヒト、森林、農業、エゾシカのバランスは常に変化するものなので、保護管理システムは、始終変っていく自然の問題に合わせるよう、柔軟でなければなりません。



セミナー後のお別れパーティーでのマツカラ夫妻

#### ■2. 給餌プログラムの工夫

阿寒地域では樹皮食害を減らすために冬期間に給餌(ビートパルプ)を行い、ある地域的には給餌プログラムによって、樹皮被害はかなり取り除かれてきたと言えます。しかし、長期的にこの給餌を行った場合、シカの個体数の増加につながる悪影響も考えられます。

そこで大事なことは、最も低い質の食べ物がある何かを見出すリサーチを進め、樹皮にぎりぎり被害を与えない程度の餌を工夫する必要があります。

また、もう1つの手段としては、給餌プログラムをエゾシカの行動を変える手段として使うことです。つまり、エゾシカが好まない樹木が分布している地域に給餌場を移動させて、樹皮食害を防ぐやり方が考えられます。

### ■3. トラッピング・システムの開発

エゾシカの個体数調整の策として間引きが行われていますが、費用対効果からみると経済的に効率的ではないと言えます。代わりに、フェンスを使った罠を工夫し、試験的にやってみてはどうでしょうか。トラッピング（罠）システムは、間引きより効率的ですし、将来的には間引きに取って代わる進歩的な方法だと思います。特に、ハンター人口が減っている今、人々が間引きをする

必要も無いわけですから、より有効的であります。

### ■4. 知床は世界の宝・適切な管理を

イエローストーン国立公園などの管理経験から言いますと、知床国立公園は日本の公園の中では豊かな自然、しかも固有の自然環境を有した世界の宝となりうる公園だと思います。知床の管理は、自然のプロセスに任せた管理がなされることを期待しています。●

★マッカーラー夫人のイヴェットさんは教師であり、またハンターでもあるとのこと。かつて野生動物の保護管理を学んだ経験もあり、セミナーではハンター人口の減少について「女性やハンターの家族を勧誘してはどうだろうか」、また、野生動物への餌やりが見られる現状から、「環境教育（自然に対する教育）を、例えば地域の学校と協力して取り組む必要があるのでは」という提言をいただいています。

#### ◆Topic 3

#### 被害対策部会によるフェンシングマニュアル

#### 「エゾシカ被害と対策～エゾシカとの共存をめざして」が完成しました！

当協会の3部会、「A. 保護管理部会」、「B. 被害対策部会」、「C. 有効活用システム部会」の一つ、「被害対策部会」が、2年がかりで取り組んできたフェンシングマニュアルが9月はじめ、完成しました。

原文宏、五十嵐敏彦、若菜千穂、各氏の執筆メンバーが、大泰司紀之会長に原稿を提出し、最終的な監修作業が進められています。

「エゾシカ被害対策～エゾシカとの共存をめざして」とタイトルのつけられた報告書は、A4版で132ページ。（社）エゾシカ協会編集、（社）北海道開発技術センター発行となります。

報告書の内容は、第1章の総論でエゾシカの生態、農林業と交通への影響、第2・3・4章は被害対策の調査手法と計画立案、フェンスの設計など基礎的内容です。第5～9章にかけてはワンウェイゲート、テキサスゲート、アンダーパス、餌場など各種構造物の計画・設計に関する詳細、第10章は整備効果、11章は技術資料として設計図集と文献からなっています。

「大変、充実した内容で、この業界のプロの方々の『実力』のほどがよくわかり、2年間かけてまとめただけある素晴らしい成果となっている。『エゾシカを

食卓へ』、『野生動物の交通事故対策』以後のエゾシカ対策がまとめられているという側面もある」と大泰司会長。単行本出版も計画中とのことです。

被害対策部会のメンバーの方々、本当にお疲れさまでした。■

#### ★ 林 好美さん、どうぞよろしく！→



今年5月の総会セミナーの講師役として、彗星のように現われた、チャーミングな女性一人。シカ関係者には顔の広い会員の方も、「こんな人がいたの?!」と驚いたり、喜んだりされたのでは。

その後、道環境科学研究センターの梶先生のもとで研究スタッフに参加されたり、マッカーラー教授の滞在中の活動をサポートされたり、と活躍され、エゾシカ協会事務局も大いに刺激を受けたり、助かったりしています。今後、協会の研究活動もご支援いただくことになっていきますので、林さん、どうぞ、よろしく願いいたします。ニュースレターでも、次頁のように今号から4回の連載をお願いすることになりました。読者のみなさん、お楽しみに。（\*写真は総会セミナーでの林さん）

# My Deer Stories

林 好美

★はやしよしみ：NHKディレクターを経て、2000～02年  
エディンバラ大学留学。02年5月より札幌市在住。

## 第1回 アカシカの保護管理に学ぶ

近ごろ私は、つくづく人と人との出会い、縁というのは不思議なものだと思う。イギリスから帰国して1週間後、時差ボケもまだ残した私は、あるスポットライト(?)の中においた。それが、5月24日に行われたエゾシカ協会のセミナーだった。

私は、テレビ局で長年番組制作に携わり、生まれてこのかた、エゾシカはもちろん、シカについての知識を何ら持ち合わせていなかったし、また北海道に全く縁もゆかりもない人間だった。そんな私が、先月の環境開発サミットで言われてきた「サステイナブル・ディベロップメント(持続可能な開発)」、つまり「人間と自然・動物の共存」を考えようと、イギリスはスコットランドの大学院に2年前に入学をした。気持ちは、目指せ「サステイナビリスト(Sustainabilist)」。そこで私は、たまたまスコットランドのアカシカの管理を見つめることとなり、そしてまた、留学中に我が家が東京から札幌に引っ越しをするという、思わぬ偶然に遭遇をした。この偶然が、私をエゾシカ協会、そして北海道でシカの管理に関わる人々との出会いへと導いてくれたのだった。今私は、そんな偶然に感謝をしている。出会った皆さんに、少しでも興味をもってもらえるような話題をこれから提供できたらと思っている。

さて、本題に入ろう。現在、スコットランドにおけるアカシカの保護管理は変わりつつある。今回は、現在のスコットランドのシカ保護管理体制についてお話ししようと思う。

1960年代以降、スコットランドのアカシカの個体数は増加の一途をたどり、現在、35万頭を超えと言われていた。伝統的にスポーツハンティングが行われてきたイギリスではあるが、シカの増加によって、農作物、森林の木々、家庭の庭などが、シカによる深刻な被害を受けるようになり、アカシカは「害獣」として見られ、そのマイナスイメージは今や拭い去ることはできなくなっている。が、その一方で、アカシカは、生物多様性の1要素、自然遺産であると同時に、スポーツハンティングやシカ肉の販売、観光を通して、スコットランドの地域経済に利益をもたらす重要な自然資源、地域経済の収入源の1つでもある。スコットランドの人々の中にも、シカの重要性の認識は間違いなくある。近年、スコットランドでは、利益と損失の両面を持ったアカシカを、経済的にも生態系的にもうまく保護管理していくという政策が

進められている。

スコットランドの土地の80%は、個人の地主が所有するもので、「エステート(荘園)」と言われている。残りの土地は、王室やナショナルトラストなどが所有している。それ故に、アカシカが分布・生息し、狩猟が行われる多くは、荘園の土地ということになる。狩猟の権利も土地の所有者にあり、地主たちが訪れるハンターたちに狩猟権を貸す。そのため、シカは、地主の財産のように見られがちであり、地主本人の資産も、シカの数によって計られる傾向にある。こうした土地所有のあり方のために、過去においては、荘園主レベルで、シカの管理が行われ、ある意味、彼ら自身の利益になるような管理も見られた。例えば、冬場に給餌をして、雄シカの個体数を維持するなど。

しかし、スコットランドの法律で定義されている通り、野生動物であるシカは元来「共有の財産」であり、誰のものでもない。現在は、シカの生息地周辺に住む、関わる地域の人々を巻き込んだ「地域レベル」でのアプローチを目指し、1959年に設立された政府機関である「スコットランド・シカ委員会」を筆頭に、シカ管理グループ(荘園主、農林業従事者、その他の土地所有者からなる)と、そのグループのメンバーの代表として設立された「シカ管理グループ協会」が協力的体制をとって、個体数のモニタリング・コントロールその他の調査を行っている。

これまで、スコットランド・シカ委員会は、生息地の環境(生態系)のことばかり強調してきたが、長期的には、経済事情も踏まえて全体的にとらえる必要があるという姿勢に変わってきている。例えば、シカの管理に関わる費用を誰が払うべきなのか、シカがもたらす利益はどこに入っていきべきなのか、などなど、地域の環境・状況・人々の興味・目的を考慮しながらの地域レベルでのアプローチが、これからのシカ管理の成功の鍵になると考えられるようになった。

現実には、土地の所有の関係から、シカ管理に関して、今もなお荘園主が大きな力を持っていて、問題点は多々あるが、荘園主と一歩進んだ協力的体制をとっていくことが、より理想的な管理体制に近づいていくことであり、シカ管理の改善につながることであると信じている。私自身、スコットランドのシカ保護体制のこれからの進展をまた見つめていきたいと思っている。■

# 会員ひろば

## 上條シェフの華麗なる創作メニューを味わおう！

シカ食べる会 in ホテルアルファサッポロ/2002年5月24日&7月31日

5月と7月、札幌市中央区のホテルアルファサッポロで、シカ肉を主役にしたメニューによる食事会が開催されました。5月は本協会総会&セミナー終了後、7月はカリフォルニア大学パークレー校（野生動物管理学）のマックラー教授によるセミナー終了後と、どちらもシカ肉の有効活用に関心を持つ参加者ぞろい。道産食材を積極的に取り入れたオリジナル料理で名高い同ホテルの料理長、上條一シェフが卓越した創作力で、エゾシカ肉の風味を生かした料理を用意してくれました。

上條シェフの持論は「シカ肉はモモとスネが旨い」。通常はヒレやロースを用いるシカ肉料理ですが、2回ともモモ&スネで構成された貴重なメニューとなりました。また7月は夏ジカ肉を使い、味&食感の違いを前回と比べる試みも。味噌や醤油といった和風調味料でシカ肉の旨みをさらに引き出すなど、シカ肉料理のレパートリーの広がりを感じさせました。この場を借りて、上條シェフに心よりお礼申し上げます。（阿部貴美子/事務局）

★《おことわり》「シカと聞こう！シェフの話」はお休みしました。次号は上條一シェフが登場します。お楽しみに！

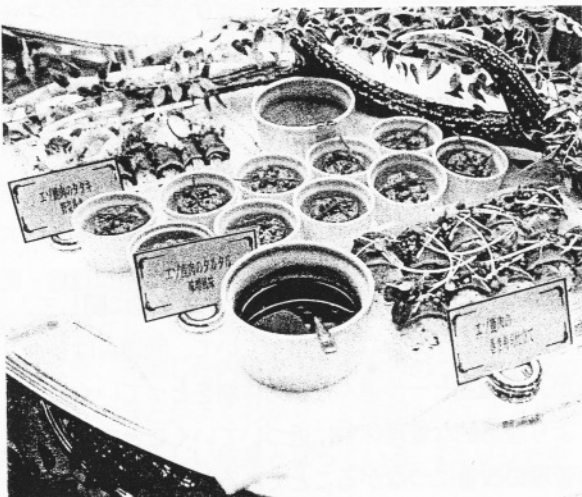
### 5月24日のMENU

- エゾ鹿スネ肉のスープ（スネ肉）
- エゾ鹿挽き肉のカレー（以下、モモ肉）
- エゾ鹿肉の巻き寿司仕立て
- エゾ鹿肉のじゃがいも包み
- エゾ鹿肉のタタキ 野菜巻き
- エゾ鹿肉のタルタル 味噌風味
- エゾ鹿肉のグリル サラダ仕立て
- エゾ鹿肉のソテー 行者ニンニク添え

### 7月31日のMENU

- エゾ鹿スネ肉のスープ（スネ肉）
- エゾ鹿肉のタタキ 野菜巻き（以下、モモ肉）
- エゾ鹿肉のしゃぶしゃぶサラダ
- エゾ鹿腿肉と茄子のグラタン
- エゾ鹿腿肉のラグー タリアテッレ
- 夏エゾ鹿肉のタルタル 味噌風味
- 夏エゾ鹿腿肉の網焼きサラダ
- 夏エゾ鹿腿肉と筍のグリル バジルソース
- 夏エゾ鹿腿肉の黒胡椒風味ニンニクのピューレ添え

手前から巻寿司、タルタル、タタキ（5月24日）



赤ワインとも合うなあ…。いい気分。

## ★上條シェフ、シカ肉料理を語る★

シカ肉は、フランスでは牛肉よりも高級な食材として扱われています。フランスではシカ肉を熟成させて食べるのが一般的です。しかし、北海道では「くどい、臭い」とかいう評価になってしまいシカ肉の評価が低いまです。

3年ほど前に足寄で捕ったばかりのシカ肉を食べたところ、全然臭くないし良い味が出ていわけです。というわけで、それ以来捕ったばかりのシカ肉を材料にしてメニューを作ってきました。お客さんにも好評をいただいています。フランス料理本来のシカ肉の使い方とは違った形ですが、和食とか東南アジア系の香辛料とかを使ってメニューを今作っています。個人的にはシカ肉の流通価格をあまり下げたはほしくないと思っています。それだけ価値の有る食材ですから。しかし、一般の人々に分かってもらうためには流通をもっと促進させなければならぬと思います。

もしシカ肉が適正な価格で流通し、正当な評価も定着するならば、北海道から発信できるシカ肉料理ができるのではと思っています。私も札幌で料理人としてがんばっていますが、食の発信というのは東京からであったり、海外からであったりわけです。そのことは個人的には不本意なので、北海道から発信できるものは無いのかと思ったときに第一に挙がるのはエゾシカだと思います。その他に、知内の牡蠣、マコガレイ、ヒツジもありますね。これらを使った料理を発信していきたいと思っています。■\* <5月24日総会セミナー講演より要約>



総会セミナーで語る上條一シェフ

### 上條シェフのレシピ その1:

#### エゾ鹿スネ肉のスープ

シカ肉の旨みと滋味が凝縮!

【材料・4人分】

シカスネ肉 400g、玉ネギ1/2個、人参1/3本、セロリ1/2本、ブイヨン1リットル

【作り方】1、スネ肉は大きく切り、玉ネギ・人参・セロリは皮をむく。2、1をブイヨンに入れて弱火で4~5時間煮込み、すべての材料を取り出してさいの目切りにする。3、スープに塩・コショウで味を調える。4、切った材料をスープに加える。



マツカラ教授夫妻、林好美さんもエゾシカ料理を堪能!

### 上條シェフのレシピ その2: エゾ鹿肉のタルタル味噌風味 舌にとろける甘味がたまらない!

【材料・4人分】シカモモ肉 200g、玉ネギ 50g、アサツキ 20g、人参・大根・キュウリ各 50g。

《味噌ドレッシング》みそ 50g、玉ネギ・ニンニクみじん切り各 5g、アサツキみじん切り 10g、オリーブオイル 60cc、白ワイン酢・しょうゆ各 20cc、砂糖 20g、塩・こしょう

【作り方】1、シカ肉、玉ネギ、アサツキはみじん切りにし、ボウルに入れて味噌ドレッシングと混ぜる。2、人参・大根・キュウリは千切りにして水にさらす。3、器に1と2を盛り付ける。

## 事務局から

5月24日の総会については、会員の皆様方にすでに別途、ご報告済みですが、右の新役員体制について、あらためてよろしくお願い申し上げます。

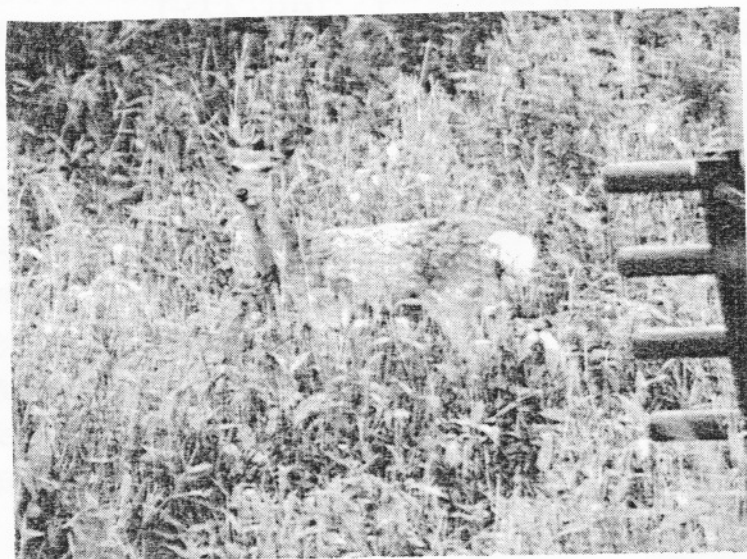
なお、総会前にご提案があった「エゾシカ協会の提言」(10号ニュースレター4ページご参照)の発信につきましては、総会時には時間の関係もあり、議論に至りませんでした。今年度については時期を逸した格好ですが、引き続き、事務局で提言内容について検討を重ね、来年度に向けて、会員の皆様に原案をご提示する予定です。ご理解のほどお願い申し上げます。

<事務局長：井田>

## ■こんな1枚：知床の母子

02.6.22 Photo by Hiroyo

知床国立公園内セセキで出会ったエゾシカの親子。道路わき斜面で授乳していた様子。カメラを構えたその人もおかあさん。どちらも親子連れ。母子と母子が見つめ合った一瞬だったのでしょか。(α)



### ● 2002年度役員体制

会長：大泰司 紀之 北海道大学大学院 教授  
副会長：金川 弘司 (社)北海道獣医師会 会長  
棚野 孝夫 白糠町長  
理事：佐藤 春駅 (社)北海道猟友会 専務理事  
香川 博彦 足寄町長  
原 文宏 (社)北海道開発技術センター  
理事兼企画部長  
鈴木 正嗣 北海道大学大学院 助教授  
小谷 栄二 ガラガーエイジ(株)代表取締役  
大金 弘武 大金畜産(株)代表取締役  
籠田 勝基 鳥取大学名誉教授・獣医師  
監事：高畑 秀美 西興部村助役  
五十嵐 敏彦 (有)ジー・エイ・シー代表取締役

## こっそり朗報!

<http://www.yezodeer.com/>

会員の方だけに、ホームページでも、  
ニュースレターがご覧になれます。

●「ニュースレター閲覧窓口」をクリックした後、ユーザー名の欄に「yezodeer」、パスワードの欄に「hirakegoma」と入力して、リターンキーを押してください。わかりにくければ、平田までメールでお問い合わせください。アドレスは [PXN04427@nifty.ne.jp](mailto:PXN04427@nifty.ne.jp) です

### 編集後記

先日、札幌から砂川方面に走って、みとれたのは、素晴らしい稲田の黄金色。金属でなくても黄金色はあるのだな、妙に感心した次第です。半年ぶりの発行となりましたが、今号は、まさに秋の実りにふさわしい貴重な情報の満載となりました。それぞれ多忙な中で、梶光一さん、宮津直倫さん、そして林好美さんらのバックアップに感謝いたします。唐突ですが、ここでもちょっとグルメ情報。旭川近郊の小さな町、朝日町を訪れた際、猟友会の若手メンバー(といっても五十代)に、エゾシカの自家製チャーシューというのをいただきましたよ。その方曰く、「モモやスネ肉がうまいんだ」。これって上條シェフと同意見。猟師さんたちの話をもっと聞いてみたいな、とふと思つたものでした。ハンターさん、ご寄稿お待ちしております。(α)

編集スタッフ：アルファ地域文化ネット／阿部貴美子／小山裕代／井田達